

中央設計技術研究所

# 全国展開へ新ビジョン発表

## 第58期経営計画発表会開く

中央設計技術研究所（金沢市、中辻英二社長）は10月29日、今期のキックオフとなる第58期経営計画発表会を金沢市アクトホールで開いた。

例年10月期のスタートに合わせて開催しているもので、同日は全国から160人を超える社員が参加した。

全員の経営理念の唱和に続き、中辻社長が今期の経営方針を発表。このなかで「前期の受注、

売上ともに好調で目標額を達成した。人材獲得に積極投資し、社員数は10人純増の180人となった」と前期を振り返り、今期経営目標について「業績の安定には受注が第一であり、社員数増と共に会社の成長、安定した業績の維持があり、大

手建コンと戦いながら、今期も継続して受注領域の拡大を目指したい」と力強く語った。

具体的には、九州北部の開拓、関東・北関東への営業領域拡大、東海支店領域の再強化、新規顧客開拓、深堀、関西圏域の領域拡大、新規顧客開拓などの方針を示した。

さらに、同社では約1年かけて、新たに2021年度からの「CSE2025ビジョン（中期経営計画）」を策定した。スローガンには「上下水道・環境事業創造企業」官民協働企業への変革、挑戦、革新」を掲げ、4

つのビジョンの実現に向けて、上下水道事業分野の経験と実績の強みを生かし「全国展開・水コン

5位」などの10のシナリオを盛り込んだ。

中辻社長は「2020年度ビジョンの目標である売上高30億円の達成が見えてきており、時代と共に経営戦略を変えていかなければならない。今期も柔軟に対応しつつ、全役職員で取り組み、快適な職場環境に改善し、業績目標を達成していこう」と呼びかけた。

発表会では、引き続き「管理、営業、技術の3本部が方針を発表。今期初めて開いたパネルディスカッションでは、営業部門と技術部門が目標や取り組み、諸々の活動における成果や苦労話、今後の展開などを披露し、参加した社員は熱心に耳を傾けていた。

その後、「情熱とやりがい」「レガシー（業務物件の実績写真集）」「女性協議会」「人材獲得知名度向上」といった各種協議会・ワーキンググループの活動報告、永年勤続表彰や業績表彰などを執り行い、今期計画の達成に向けて全社員が決意を新たにしました。



経営方針を発表する中辻社長（上）と今期初めて開いたパネルディスカッション